

令和7年2月12日

いつもと違う時間に恐縮ですが、当初予算の発表させていただきたいと思  
います。既に中身については、ご報告をさせていただいている部分もあると思  
いますけれども、全体像を私の方からご説明します。時間もありますので、か  
いつまんでお話をさせていただくことをお許しいただきたいと思  
います。

まず資料の1-1をご覧くださいと思  
います。7年度の当初予算、A3  
の紙を見ていただければと思  
います。今日は資料の1-1とそれから資料の1  
-2、当初予算の主要事業、それから資料の8、これでご説明をさせていた  
だきたいと思  
います。最初、資料1-1でありますけれども、ちょっと細かい資  
料になってます。ポイントだけ申し上げます。

一つは、これは実は予算と条例、これ行政展開する上での車の両輪になり  
ます、予算と法令が。それが一緒に書いてあるものです。実現したい政策に予算  
と法令で一緒に対応すると、こういうことなんです、この資料の上を見てい  
ただきますと一般会計総額8,366億円と書いてございます。対前年3.9パー  
セント増ということで、コロナの時の金額を除いて、過去最大ということにな  
ります。この過去最大は、行政が頑張ったというところというよりは、県民の  
皆さん、企業の皆さんに頑張っていて税収が上がってるというところが  
大きいところです。それから、公共事業を含んで、国からの補助金、これも増  
えております。教職員給与ですとか医療体制のところも補助金上がってしま  
すが、それもありまして、過去最大の予算ということになってございます。

大きく二つの課題にこれから対応しないといけない。県民の命と尊厳を守  
る、左の上に書いてございます。そして左下の方に書いてますのが、三重県の  
未来を拓く、この二つの対応。命と尊厳の方につきましては、二つにこれも分  
けておりまして、困難を抱える子どもへの支援、そしてもう一つが防災・暮ら  
しの安全安心であります。困難を抱える子どもへの支援につきましては、これ  
虐待条例、今検討を進めてますが、これも含めて、予算でも対応しようとい  
うものでございまして、主な事業を見ていただきますと、困難を抱える子ども  
への支援のところ、例えば、後で話しますがフリースクールの支援について、新  
たに、これは令和6年度の予算でもやってますけれども、対象を変えてやっ  
ていくというもの。それから、虐待の条例のところは下から2番目に書いてござ  
いますが、市町や警察との連携を強化するというようなところも実は条例の中  
に盛り込もうとしているところです。

右側、防災・暮らしの安全安心。これにつきましては、医療提供体制の確保  
などもやらせていただいているところでございますが、条例としては、性暴力の  
根絶を目指す条例、これを制定を今検討を進めているところでございます。防  
災・暮らしの安全安心につきましては、予算は主な事業のところに書いてござ  
います。後ほどこれも説明しますが、命を守る防災・減災総合補助金、子どもの

総合補助金を作りました、令和5年に。これと同様に、総合補助金制度を防災でも作るというのが、今回の目玉の一つです。

次に未来を拓くの方、子どもの希望を育むというところがございます。先ほど、困難を抱える子どもへの支援、防災・暮らしの安全安心の伸び率のところご説明をし漏らしましたが、見ていただければお分かりになるように、全体の予算、過去最大でございますので、それぞれ増しておるということで、子どもの希望を育むというところにつきましても、26.3パーセントの増ということでございます。これは法令で言いますと、子ども条例改正、今般2月の議会に提出することを考えてございます。ここの予算につきましては、子ども医療費の現物給付、これは令和5年度予算から市町を支援する形で県がやってまいりましたけど、そこを今回、市町補助に対して子どもの医療費現物給付、中学生の入院まで拡大をするということです。

それから、産業の成長支援につきましても増やしておりますが、半導体、洋上風力、スタートアップなど支援をしてまいります。

観光、これ三重県はインバウンドの戻り率がコロナ前と比べて、全国47位という、これ単月ではあります。昨年8月とか10月、あまり、これは良くない数字でございます。何とか変えていかないかん、ウィークポイントを克服していかないかんということでございまして、インバウンド誘客に関する戦略を作りましたり、あるいは、受入環境充実のための補助金を作ったりしてございます。一部調査費については、2月補正に前倒しをするということもこのインバウンドに関しては考えております。2月補正と当初予算、一体的に運用していくということは、国と同様でございます。

右側、人口減少対策、ジェンダーギャップの解消もインバウンドと同様、全国的な数字が低い、順位が低いところがございます。ここを改善していく必要があります。戦略の策定もやっていきますし、家事代行サービス、これを自治体がやられる時に県がその自治体を支援するという、これは子育ての総合補助金のメニューとしてやっていきますけれども、これは一つの目玉でございます。

それから移住、これ移住は過去からずっと三重県頑張ってきてまして、移住者増えておるんですけども、対象、今までプロモーション、東京でやってなかったんで東京でやるとか、あるいは今までは田舎暮らしに行きませんかというやり方をやってましたけれども、それを三重県に住んで大阪なり名古屋で働きませんか、そういった形でもやっていくということでございます。

公共ライドシェアの導入も力を入れて取り組んでいきます。

ジェンダーギャップの解消につきましては、これも一部前倒しをいたします。

それから、人材確保対策、これもしっかりやっていきますが、カスタマーハラスメント防止条例、今検討を続けておりますけども、これも併せてやっていきますし、海外の合同面接会、外国人の雇用、ここも力を入れてやっていき

いと思っております。

一つ言い漏らしましたが、防災の関係につきましても、孤立集落の対応、これにつきましては2月補正に前倒しをする部分がございます。

それでは、資料1-2を見ていただけませんか。ここに主要8項目をまとめております。ここに書いてある項目でございます。この項目についてご説明をさせていただきたいと思っております。先ほど、全体像をご説明申し上げました。

子ども・子育ての支援からお話をさせていただきたいと思っております。令和5年度に初めて子どもまるごと支援パッケージというのを発表させていただきました。今回、令和7年度は3rdステージということになります。引き続き、三重県では、子ども・子育て、ここに力を入れてくというものでございます。なお、ここに伸び率を書いてございます。これ8本とも伸ばしているところでございます。まず、先ほど申し上げました子ども医療費、現物給付を中学生の入院まで拡大するというところでございますが、これは障がい児、それからひとり親家庭の子どもさん、これも含んでおりまして、約1.9億円の予算は、障がい児、あるいはひとり親の家庭の医療費補助、これを合計しますと2.1億円ということになります。令和5年度1.3億、令和6年度1.5億、こういうふうに市町を支援をしてまいりましたけれども、今回2.1億円の支援ということになります。それからフリースクール、令和6年度フリースクールに支援をしてまいりました。これは、フリースクールに通わせておられるご家庭への支援ということで、1家庭1.5万円までということでやらせていただきましたが、今回はフリースクールへの支援ということで、事務局職員の人件費、あるいは施設の賃借料、修繕費等の費用について補助をするというものです。それから、保育士・保育所の支援センターで保育士確保のための人材バンク機能、これを強化いたします。これは各市、各町で、保育士の人材バンクを作っておられるんですけど、その市や町の中で閉じている人材マッチング紹介制度をこれ県がやりますと、他の市や町で登録された方も保育士として雇用することができるというので、広域的な人材バンク機能を今回やろうと思っております。

2番目がジェンダーギャップの解消でございます。戦略の策定、一部2月補正に前倒しますけれども、これをしっかりやっていると。ポイントは、短時間正社員制度、これを導入する企業に対する支援、国も短時間正社員制度おっしゃっておられます。これは県の方で先に言っておったわけでございますが、国も同調していただくというか、後追いしていただけることではございますが、まず県の方では予算として奨励金支給対象を増やそうということなんです。それから家事代行サービス、これがありますと家で家事をしなくてもいいと、これ男性女性性別に限りませんけれども。ということで、子育ての応援総合補助金の中のメニューとして追加をしていきたいと考えています。

次のページをご覧ください。南海トラフの関係です。昨年1月に能登半島地震ございました。これの反省も込めて、我々が対応すべき事項というのを80項目作ってきたわけでございます。その中で大きなポイントは、孤立地域どうするのか、それから避難所の環境改善、これは国でもやるというふうにおっしゃってられます。実は六つの枠を設けています。孤立地域対策の枠、それから避難所環境改善のためのもの、耐震シェルター設置促進の枠等ございますけれども、これ各自治体で、例えば避難所もそうですが、さまざま対応考えていかれます。対応を考えるための計画づくりのところから支援も県としてはしようと思っております、自治体がかけられる予算の概ね2分の1を県としても支援していきたいと思っております。避難所の備品なども含まれます。それから、県でシチュエーションルームとオペレーションルームを一昨年つくったところがございます。これについてはマルチモニターを設置したり、それから個別の空調にしたりというようなことをやっていきたいと思っております。県民の安全安心を守るための司令塔になりますので、ここを強化するということがあります。それから空中消火の必要性については、防衛大臣にも要望してまいりました。今回は、自衛隊に消火バケツを我々購入して、これを預けて実際に運用してもらおうというものでありますし、協定も作っていききたい、こう思っております。そのための予算です。

次は移住です。移住については見ていただければお分かりのようにこうずっと増えてきてはおるんです。増えてきてはおるんですけど、人口減少の中で一層これを加速させようと、措置をさらに強化しようということがございます。ここに四つのモデルというふうに書いてございますが、モデルを四つに区分して、今までは三重県に移住してきていてそこで働くというような感じ、一つだったんですけども、例えば仕事を変えずに移住される方も三重県で住んでくださいというような、例えば名古屋で働いておられる方、大阪で働いておられる方、住まいは三重県がいいですよ、みたいなアプローチをやっていこうというものでございます。それから独自の移住フェア、セミナー、これはもう今まで名古屋とか大阪でやってたんですけど、東京でもやろうってということで、そこをこ入れをしています。

それから公共交通、これも重要であります。三重県でやっています1万人アンケートの中で、移動手段、交通が便利でないという不満をおっしゃる方が一番多いです。今若い人も、公共交通が便利でないので三重県には住まない、ということをおっしゃられる方もおいでになります。従って、公共ライドシェアの導入、交通空白の解消、これ実際に基礎自治体の人と一緒にあって、そして運輸局とも一緒にあって、どこに問題があるのか、何を解決すれば公共ライドシェア、いわゆる自家用有償と言われているボランティア輸送のようなもの、これが導入できるのかを検討していきます。運転士不足の対応もしていきます。

続きまして、成長産業。人口減少対策が重要なのは、雇用、働く場でありま。それも成長していく産業を伸ばしていく必要もあります。半導体の関係、

洋上風力の関係、さらにスタートアップの関係で今まで以上に力を入れていきたいと思っております。スタートアップの方は、インキュベーション機能、要するに一から立ち上げるというのは、これなかなか大変なんです。200社、300社で1社成功するかどうかというのがスタートアップですから。すでにある企業、例えば大都市にある企業の一部を三重県でやって、例えば調査設計部門を三重県でやっていただくような、そういったところの誘致もやっていこうと思っております。

それから、農林水産業の振興につきましては、伊勢茶のブランド化、今までもやってきましたが、さらに強力に展開をしていきたい、輸出も含めて考えていきたいと思っております。さらに水産業の関係、新魚種導入の検討、あるいは高水温へのどう対応していくかというような栽培の仕方も含めて、支援をまいります。農林水産業、担い手の確保、受入環境整備、これも引き続きやってまいります。さらに、豊かな海づくり大会がいよいよ11月に三重県で実施をされますので、それへの対応もやってまいります。

続きまして、観光でございます。インバウンド誘客、申し上げたとおりでございます。これは熱心にやっていく必要がありますが、行き当たりばったりの対応をやっていても良くありません。政策では良くはないので戦略をきっちり作ろうと。どこがターゲットなんか、何をやっていけばいいのか、ツールは何なのか、旅行代理店の方々をお願いをするのか、従ってファムトリップみたいなのを呼び込むのか、それともSNSで三重県の良さを出していくのか、そういったことも含めてしっかりと戦略を作ります。これは、2月補正に前倒しを一部いたします。それから受入環境整備、例えば宿泊施設の和洋室化なども進めないと、インバウンド来づらいというのもありますのでそこもやっていきます。国内の観光客につきましても、県内周遊の促進などやっていく予定でございます。

以上が、予算でございまして、組織も続けてで恐縮でございます。

資料の8というのはございますか。組織改正のポイントでありますけど、今回、部レベルの組織については、大きく変えるというものはございません。令和5年の5月、津で4歳の女兒が亡くなるという虐待の事案が発生しまして、それについては、虐待対応のやり方をどう変えるのか、組織をどう変えるのか、そして人も増やしてきたところでございますが、今回も職員2名の増員をいたします。それから、中勢児相ということで、範囲を決めて児童相談所業務を行っていたところが、県内の他の児童相談所、友軍的に支援をするという機能を付加いたしますので、名称も中央児童相談所に改めるという改正をします。

もう一つ、(2)のところですか。中小企業、これは今の賃上げが大きなトレンドになっております。しかしながら、材料費、今輸入した材料も含めて、これは上がっている。価格を上げるか上げられるかってなかなか難しい。もちろ

ん適正取引、価格転嫁、中小企業、それは進めておるところでございますが、さまざまな課題が中小企業あります。なかなか苦しいという声もお伺いします。従って、中小企業に力を、企業政策に力を入れていこうということで、次長級を兼務でありますけれども、総括監を設けますし、さらに単独で課長級の推進監を設けて、中小企業施策を強力に展開をしていく。中小企業の皆さんに寄り添って、これは事業承継も含みますけど、そんなことをやっていきます。

また、インバウンド誘客の対応、これしっかりやってかなきゃいけない。総括監というのを設けて、これも兼務でやっていきます。

ごみ処理のための組織、それから工業研究所、高等技術学校の一体整備の対応というのもやりますし、それから、国内外に向けた戦略的なプロモーション、今単監で、プロモーション推進監でやっておりましたが、国際戦略とも一緒になってやっていくということで、国際戦略・プロモーション推進課というのを新設をすることにしております。

さらに、先ほど見ていただきましたように、法令というのは予算と並んで行政展開の両輪の一つであります。それを強化するために、法務・文書課を法務課に再編をして、定員についても増やしていこうということを考えております。以上が組織でありますけど、組織と直接は関係がないんですけども、県庁内で検討するワーキングチームを二つ立ち上げようと思っております。これは法令的に言うと、訓令、国家行政組織法に規定されている法令体系の中では訓令というもので規定をする、三重県では訓というふうに呼んでおるものですが、訓で規定をするものでありまして、一つはジェンダーギャップ解消に向けたチームの設置、これ民間企業にジェンダーギャップ解消をお願いしますということをおっしゃっておりますが、県庁の中でもジェンダーギャップがある可能性があります。それについて中で議論をし、こういうところを改善するという提案を受けて、進めていきたいと思っております。さまざまな年代の方がこのチームに入っていていただく、それから男性も女性も入っていただくということになるんじゃないかと思いますが、今これは検討を進めているところでございます。また決まりましたら皆さんにご報告をさせていただきます。

それから、最近若い公務員の方が辞めていかれる傾向にあります。必ずしも若くない方も辞めていかれますけど、公務というのは非常に大事な仕事でありまして、この良さというのを分かっていたいただく必要もあると思っておりますし、今、どんなところで仕事を変わりたいという気持ちをお持ちになっておられるか。これを確認をしながら、改善をしていくためのチームを設置いたします。

「明日の県庁」創造チームという名前は職員の方がつけていただきましたけど、議論をするための場を作りまして、提言をいただきたいと思っておりますのでございます。

私からは以上でございますが、予算について、一応名前をつけさせていただきましたので、発表させていただきます。令和6年度予算、5年度予算とやっ

てまいりましたが、7年度につきましては「みえ 未来 基礎固め予算」ということです。この意味でございますけれども、先ほど申し上げました、三重県ウィークポイントがいくつかあるのが分かってまいりました。一つは、ジェンダーギャップでありますし、それからインバウンド客が多くないというのも三重県のウィークポイントではないか。三重県はだいたい人口で言うと、全国22位ぐらいなんですけど、さすがに30位台、40位台のものというのは改善していかなあかんやろということでございまして、ウィークポイントを克服していくための予算でもありますし、三重県はものづくり、非常に優良な頑張っている県でございます。これをさらに前に進めるために、例えば半導体とか洋上風力だとか、あるいはスタートアップの話をさせていただきました。また、農業も盛んな県でございます。水産業もそうです、林業もそうです。三重県が優位性を持つてるところについては、例えば輸出の促進も含めて、あるいはブランド化も含めてやっていくということで、得意なところは伸ばしていく。そういう意味で、基礎を固めていってさらに伸ばしていこうということでありまして、基礎固めをしないと、そこに作る建物は砂上の楼閣になってしまいます。7年度はまず基礎をしっかりと固めようと。その上で、その上にしっかりした建物を建てていこうということで、基礎固めのための予算と考えております。私からは長くなって恐縮ですが、以上であります。